

【授業科目】在宅看護援助論Ⅰ（制度・方法論）

Home care Nursing Ⅰ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
多次 淳一郎、春名 誠美、北井 真紀子	2年次後期	必修	2	30	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要 / 本科目では、在宅で暮らす療養者とその介護を担う家族を支える法律・制度とケアマネジメントについて学ぶ。また、在宅看護で特徴的なケア方法について学ぶ。講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材も適宜用いる。学生の主体的な学習となるよう、授業内で適宜、小演習を取り入れる。また、一部の講義は在宅看護の実務者をゲストスピーカーとして招聘する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する。</p> <p>*実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 在宅看護の基盤となる法律・制度を説明できる。                  ② 在宅ケアマネジメントの目的と方法を説明できる。                  ③ 在宅看護における主な看護技術を理解し、事例への適用の仕方を考えることができる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>課題                  ① 提示事例を読み、その特性に応じ利用可能な制度・サービスについてまとめる。(第5回指示、第7回終了時提出)                  ② 別途指示する。(第9回以降指示、第15回迄の間で指定する時期に提出)</p> <p>事前・事後学習                  事前学習：教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく(各30分)                  事後学習：同日の学習内容をふりかえり、整理しておく(各30分)</p>							
授業計画	<p>第1-9回 暮らしを支える基盤となる制度とケアマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション わが国における在宅ケアの今昔と今後の方向性 【課題①指示】</li> <li>2. 基盤となる制度①「介護保険制度① 家で暮らす(1)」</li> <li>3. 基盤となる制度②「介護保険制度② 家で暮らす(2)、施設で暮らす」</li> <li>4. 基盤となる制度③「障害福祉サービス」</li> <li>5. 基盤となる制度④「訪問看護制度」</li> <li>6. 在宅ケアマネジメント①「療養の場の移行におけるマネジメント」(小演習)</li> <li>7. 在宅ケアマネジメント②「制度に基づくケアマネジメント」(小演習)</li> <li>8. 在宅ケアマネジメント③「地域の支えあい(互助)を活かしたケアマネジメント」(小演習) 【課題①提出】</li> <li>9. 在宅ケアマネジメント④「在宅ケアマネジメントの実際」(ゲスト)</li> </ol> <p>第10-14回 暮らしを支える看護技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. 在宅看護技術①「栄養に関する看護技術(経口・経管・輸液)」【課題②指示】</li> <li>11. 在宅看護技術②「排泄に関する看護技術(アセスメント・便秘・ストマ管理等)」</li> <li>12. 在宅看護技術③「清潔と活動・休息に関する看護技術(洗髪清拭・活動休息等)」</li> <li>13. 在宅看護技術④「呼吸・循環管理に関する看護技術」</li> <li>14. 在宅看護技術⑤「創傷管理、与薬に関する看護技術(褥瘡・内服管理等)」</li> <li>15. まとめ 【課題②提出】</li> </ol>							<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多次</li> <li>2. 多次</li> <li>3. 多次</li> <li>4. 多次</li> <li>5. 多次</li> <li>6. 多次</li> <li>7. 多次</li> <li>8. 多次</li> <li>9. 多次</li> <li>10. 北井</li> <li>11. 春名</li> <li>12. 北井</li> <li>13. 春名</li> <li>14. 春名</li> <li>15. 多次</li> </ol>
評価方法 評価基準	<p>課題 30% (①②各 15%)、小演習課題 10%、試験 60%で総合的に評価する。</p>							
教科書	・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論1』(第6版1刷) 医学書院 ・河原加代子, 他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論の実際 地域・在宅看護論2』(第6版1刷) 医学書院			参考書等	講義の中で適宜紹介			
学生への助言等	<p>本科目は3年次の在宅看護援助論Ⅱ、在宅看護学実習に直結する内容です。在宅での看護を展開する上で基盤となる知識・方法(技術)になるため、常に実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。</p>							